



とびっくす No.61

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <http://www2.pref.shimane.jp/suigi/>)

無事に育った！放流アカアマダイ ～ 商品サイズの放流アカアマダイが漁獲 ～

島根県と出雲市では日本海区水産研究所宮津庁舎（旧日本栽培漁業協会宮津事業場）の協力により、平成 14 年度からアカアマダイの種苗放流を行ってきましたが、島根県で放流した魚の漁獲（以下再捕）はほとんど確認されませんでした。しかし今月の 6 月 11 日以降、続けて 4 尾の再捕が確認され、今後の再捕が期待されます（写真 1）。



写真 1 再捕されたアカアマダイ(左上:6/11、右上と左下:6/15、右下:6/18)

どんな魚が獲れたの？

再捕されたアカアマダイの情報を表 1 に示しました。他府県におけるアカアマダイの再捕事例と同様、今回の事例も放流地点付近での再捕でした。放流するアカアマダイにはタグ標識（写真

表 1 再捕アカアマダイの情報

個体番号	再捕年月日	全長(mm)	体重(g)	再捕場所	推定された放流年月	放流時の大きさ	標識
①	H24.6.11	204	111	松江市恵曇沖	平成22年4月	平均6.4cm(H22)	
②	H24.6.15	270	218	不明 ^{※1}	または平成21年3月	または7cm(H21)	左腹鰭カット
③	H24.6.15	343	501	松江市魚瀬沖	平成20年6月	平均10.4cm	
④	H24.6.18	385	636	出雲市塩津沖			

^{※1}: 不明だが、延縄の漁場から考えると出雲市小伊津漁港から10マイル以内と考えられる

2)、体内にシリコン樹脂を埋め込むタイプの標識（イラストマー、写真3）、または年や放流場所ごとに左右を決めて腹鰭のカット（写真4）を施しています。今回再捕されたアカアマダイは全て左腹鰭をカットしたものでした。この標識方法で放流した年度と耳石の輪紋数（例を写真5）から判断すると、個体番号③④は平成20年6月に、①②は平成21年3月、もしくは平成22年4月に放流したものと推定されました（表1）。これらの魚の成長は①を除けば既往知見と比較しても良好と言え、また十分漁獲サイズに達しているだけでなく、生物学的最小形（卵を産んだり、精子を出したりできる大きさ）である体重200～300g（雌の場合）に達しているものもありました。

これまで獲れなかったのはなぜ？

平成20年前後までは、放流するアカアマダイに写真2のようなタグを装着していたため、アカアマダイ特有の性質である巣穴を形成する際に脱落した可能性もありますが、はっきりしたことは分かっていません。

漁業者の方々をはじめ、皆さまへのお願い

今回4尾の放流魚を確認しましたが、今後鰭カットやイラストマー標識を施した放流魚の再捕が予想されます。このような標識魚を再捕、もしくは発見されましたら、①再捕（発見）年月日、②再捕（発見）場所、③全長や体重などの大きさ、④標識部分のついた写真（①～④とも分かる範囲で結構です）などの情報を島根県水産技術センター内水面浅海部浅海グループ（TEL:0852-82-0073 FAX:0852-82-2092（担当：清川））もしくは出雲市役所水産振興課（TEL:0853-21-6795 FAX:0853-21-6374（担当：飯島））までお寄せください。よろしくお願いいたします。



写真2 タグ標識



写真3 イラストマー標識



写真4 腹鰭のカット



写真5 4歳魚と推定されたアカアマダイ耳石の輪紋

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp